

家畜衛生だより



平成30年7月第8号（豚）
東部・北部家畜防疫獣医師会
（公社）千葉県畜産協会
東部家畜保健衛生所
TEL：0475（52）4101
FAX：0475（52）3335
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kh-toubu/index.html>

夏季休暇の時期に備え 更なる防疫対策の徹底を！

今月末から夏季休暇の時期を迎えるに当たり、日本から海外への渡航者が増えることから、日本へ家畜伝染病が侵入するリスクは高くなると考えられます。また、訪日外国人旅行者数が年々増加していますが、中国においては口蹄疫が、ロシア、ポーランド、ハンガリー等の東欧ではアフリカ豚コレラが依然として発生しています。

ウイルスの侵入を防ぐため、以下のとおり対策を徹底しましょう。

1 発生地域への渡航は可能な限り自粛する

もし、渡航する場合は、

- ・農場やと畜場等の畜産関連施設に立ち入らないこと。
- ・海外で動物との不用意な接触を避けること。
- ・肉製品等を日本へ持ち帰らないこと。
- ・帰国の際には、到着した空海港の動物検疫所カウンターへ立ち寄り、家畜防疫官の指導を受けること。
- ・帰国後1週間は、衛生管理区域に立ち入らないこと。
- ・海外で使用した衣服及び靴は農場に持ち込まないこと。



2 農場への部外者立入禁止

3 人・車両の消毒の徹底

4 毎日の健康観察を実施

5 異常を発見した場合の早期通報



【口蹄疫特有の疑わしい症状は直ちに通報を！】

口蹄疫の症状は発熱や食欲不振に始まり、後によだれを流したり、口、蹄、乳房に水ぶくれができるのが主な特徴です。

豚の健康状態には常に注意し、疑わしい症状があればすぐ獣医師や家畜保健衛生所に連絡を！

東部家畜保健衛生所 Tel.0475-52-4101

※夜間・休日は転送されますので、必ず5回以上コールしてください

適切な暑熱対策を！

今年の夏は、連日真夏日となっており、暑い日が続いています。気象庁によると、関東甲信地方の7～9月の平均気温は平年より高い見込みです。家畜の生産性を維持するために、家畜が過ごしやすい環境を整えましょう！

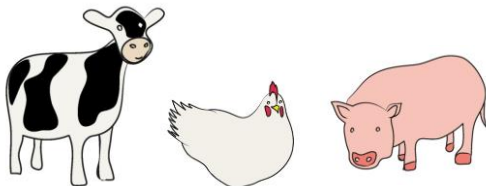
畜舎編

- 畜舎外から畜舎温度を下げる
 - ・樹木や遮光ネット、よしずによる日よけ
 - ・屋根への石灰乳の塗布
- 畜舎内から畜舎温度を下げる
 - ・換気扇や扇風機での送風
 - ・畜体への直接散水



飼養管理編

- 密飼いは避ける
 - 生産適温域の確認
- 家畜の種類によって過ごしやすい体感温度は違います。畜舎内に温度計を設置し、生産性を維持できる適温域に入っているか確認しましょう！



おもな家畜の適温域

牛	育成牛	10～25℃
	泌乳牛	5～20℃
	肉用牛	5～25℃
豚	繁殖豚	10～25℃
	肥育豚	10～25℃
鶏	採卵鶏	20～30℃
	肉用鶏	15～25℃

飼料給与編

- 良質で消化率の高い飼料の給与
- 清潔で冷たい水が十分に飲めるようにする
- 必要に応じ、ビタミン・ミネラルの補給